



著 藤井 満
絵 藤井玲子

定価：1,430円（本体1,300円+税）

発売日：2020年11月27日

判型：四六判

商品形態 単行本

ページ数：214

ISBN：9784041096536

版元の KADOKAWA の紹介
にはこうあります。

【大切な人と読んでください。】50代夫婦。子どものいない二人暮らし。

妻ががんになったら、家事も料理もできない夫（僕）はどう生きればよか？

食べることが生きることなら、「生きる力」

——それが妻からの最後の贈り物だった。

「塩をひとつまみは指3本！ 指2本は『ひとふり』や！」

がんが発覚し、鬼コーチ（＝妻）の料理特訓がはじまった。

「セカンドオピニオン」「治験」「哲学外来」「在宅緩和ケア」。

——初めてだらけのがんとのたたかいで、料理の時間はふたりにとっての最後のオアシスとなった。

「きょうと福祉俱楽部だより」にも4回にわたって寄稿していただいた藤井満さんご夫婦の闘病を記した本です。

著者の藤井満さんはきょうと福祉俱楽部代表の古くからの友人です。

そして玲子さんも満さんを通じ良く知ったながです。

だからお二人の性格を良く知るわたしにとってこの本に書かれたご夫婦の「闘病記」はとても臨場感を感じるものでした。

とても悲しい結末の物語なのですが、その場面場面には微笑ましく思わず笑いがこみ上げてしまう事もありました。

がんであることがわかった後もお二人は希望を捨てないで二人三脚で病に向かいいました。

様々な治療に希望を託しながら日々過ごしながら、玲子さんは夫に万が一に備えて料理の特訓。そのやり取りがなんと微笑ましいことか。

しかし、残念にも彼女の病を押しとどめることはできませんでした。

病が進んで行く中でもお二人は最後まで微笑ましく、辛さを飲み込みながら残された時間を過ごしました。

治療の効果が芳しくなく病院での治療を終えた後、お二人が自宅で過ごす選択をしたあとお二人の生活の様子もこの本は記しています。

ご自宅で過ごした最期の時間の記録には人が死ぬとき何が必要なのかを問い合わせています。

訪問介護の適正なご利用のためのお願いです。

きょうと福祉俱楽部では、ご利用者さんとヘルパーのための環境づくりを推進します。

☆ヘルパーは毎日検温してから訪問します。

お互いの感染予防のため、ご利用者さまにおかれましてもヘルパー訪問前に検温をお願いします。

☆ヘルパーは感染症等をご利用者さん宅に持ち込むことをできるだけ防ぐため、手洗い、うがい、手指消毒を行い、マスクを装着します。

ご利用者さまにおかれましても、訪問時 在宅されるご家族の皆さんもできる限りの予防対策をお願いします。

☆ヘルパーが体調不良の際はお休みさせていただくことも十分考えられます。急なヘルプの時間変更や曜日の変更をお願いする場合があります。

☆ご利用者さんや同居されているご家族の方が体調不良などありましたら事務所かケアマネージャーへの連絡をお願いします。

サービスを中止、ヘルパーの交代などの対策をしなければいけません。

☆コロナ感染など疑いがある場合、サービスの一時停止や訪問介護員の変更などを行うことがあります。

不安のある場合は事務所に一報よろしくお願ひします。

利用者さん、ご家族の方々への強制ではありません。

ですが、コロナ渦での訪問介護です。私たちも気をつけますので、お互い困る事態を避けるためのご協力をお願いです。



有限会社 おとくに福祉研究所
きょうと福祉俱楽部

☎075-958-2560

